

2009年7月3日

社団法人日本雑誌協会
デジタルコンテンツ推進委員会
委員長 大久保 徹也

社団法人日本雑誌協会 「雑誌コンテンツデジタル推進コンソーシアム」 設立趣意書

わが国は、世界屈指の雑誌出版王国であり、独特な雑誌文化を育み、雑誌を源泉とする多種多様な出版物を生み出してきました。しかし近年、雑誌を含めた活字メディアを取り巻く環境は激変しています。

今や、雑誌出版界はデジタルテクノロジーといかに融合していくか、という大きな課題に直面しています。2008年11月、日本雑誌協会はFIPP（国際雑誌連合）と共催で「アジア太平洋デジタル雑誌国際会議」を開催し、デジタル時代を担う企業・団体の皆様も交えて、雑誌とデジタルの融合について幅広い議論を展開いたしました。この国際会議を通じて雑誌出版界は、これまでに培ってきた多彩な表現世界を、将来にわたり維持・発展させていくためにも、デジタルテクノロジーの活用による新しい雑誌の可能性を追求していくことが不可欠との認識を共有しました。

今年1月には雑誌協会内に「デジタルコンテンツ推進委員会」を立ち上げ、本格的に雑誌コンテンツのデジタル化及びビジネス化に取り組んでいます。同委員会設置後、総務省の「ICT利活用ルール整備促進事業（サイバー特区）」に応募し、4月にはそのテーマのひとつに「雑誌コンテンツのデジタル配信プラットフォーム整備・促進事業」が採択され、具体的な実証実験に向けた検討も始まりました。目標は雑誌の新たな可能性を引き出すビジネスモデルの構築です。

雑誌は読者が主役の共感メディアです。その特性を活かし、雑誌コンテンツの魅力を様々な方法で読者に楽しんでもらうためにも、「著作権の処理方法」、「共通プラットフォームの構築」、「データベースアーカイブの共通フォーマット化」などの基盤整備が重要になります。様々なデジタル端末機器に、魅力あふれる雑誌コンテンツを配信し、これに共鳴する新しい雑誌ファンの開拓をめざす -- それは今後、新たな雑誌づくりにも反映されていくと考えます。

デジタル分野で、新しい雑誌の可能性を追求するための取り組みには、それぞれの分野に精通した技術力やノウハウをもった企業・団体の皆様とのコラボレーションがカギになります。雑誌出版界の枠を超えた実践的な研究・検討を推進していくことで、課題を克服し、新しい発見ができると確信し、ここに「雑誌コンテンツデジタル推進コンソーシアム」の設立を発起いたします。

以上